



再生可能エネルギーの未来を考える ～環境最先端都市・ふくしまを創る～



全国各地で地産地消型の再生可能エネルギー導入に向けて先進的に取り組むリーダーなどを招き、7月8日にコラッセふくしまでシンポジウムを開催しました。全国の先進事例を学ぶとともに、福島市での再生可能エネルギー導入の方向性や将来への展望を考えました。

問/環境課 ☎5251-3742



再生可能エネルギーとは？

太陽光、水力や風力、地熱など自然の力を利用し生み出されるエネルギーのことだよ。
化石燃料(石油、石炭など)を燃やして出る二酸化炭素は、地球温暖化の原因の一つ。
再生可能エネルギーは、太陽光や水力など自然の力を使ってつくることができるから、自然にもやさしいよ。

基調講演



中井徳太郎さん
環境省大臣官房審議官

世界が地球温暖化を認識しています。日本はエネルギーを海外に頼っています。少子高齢化が進み、地域や社会のあり方が大きく転換していく中で、英知を集結し、技術を生かし、何でも物に頼る価値観と日本のシステムを修正していかねばなりません。

エネルギーを効率的に地域で集約・展開し、地域の資源を活用し自分で賄う。供給を地域で行い、そこにみんなが関わる社会を目指します。

「地産地消」とともに、「地産地生」(自立分散型で地域で資源が循環する社会)を実現するため環境省も皆さんとともに取り組みを進めます。

環境最先端都市・ふくしま 実現に向けた取り組み



小林 香
福島市長

市内の再生可能エネルギー導入として、まずは四季の里に小水力発電を設置します。地元の技術と資源を生かした発電です。また小・中学生の環境学習の場としても考えています。

また一般家庭の太陽光パネル設置費用を助成しています。公共施設への設置も進めています。

市内の企業の皆さんには、再生可能エネルギー導入時の銀行借入れの利子助成や、省エネ分野の研究・技術開発を支援しています。ぜひ活用してください。

市内では、民間企業も続々と再生可能エネルギーを利用した事業を展開しています。

今年度、再生可能エネルギー導入の方向性や具体的な取り組みを示す計画を策定します。

市民の皆さん・事業者・行政が一体となり「環境最先端都市・ふくしま」を実現するための取り組みを進めます。

市再生可能エネルギー導入推進計画を策定

パネルディスカッション



コーディネーターの後藤忍さん

地域の自立とエネルギーの自立はとも関連しています。主体はやはり地域の人々であることが、パネリストの共通した意見。それを支えるのが自治体であり、永続するための仕組みづくりが重要です。

コーディネーター

後藤 忍さん
福島大学理工学群准教授

パネリスト

近藤智洋さん
三浦規光さん
笹島 敏さん
平野彰秀さん
小林 香

パネリスト発言要旨

三浦さん

当初、行政とのやり取りは苦労しました。現在は身を粉にして対応していただいています。NPOや民団の後押しとして自治体の協力は不可欠です。再生可能エネルギーを中長期にわたって、辛抱強く増やしていくことが必要です。

笹島さん

バイオマス発電は、常に人の手を離れなければ動かない点は強調したいですね。再生可能エネルギーの事業は、地域づくりとも大きく関わってきます。

平野さん

自然エネルギーの事業は、民間や地元の方が主体となるのが一番です。民間が手を挙げてできるような仕組みづくりの構築を、現在地元の行政と検討しています。

近藤さん

地域の未利用資源の発掘は、環境省も着目していますが、見付けるのは難しい。活用された事例を今般のシンポジウムで学べて大変参考になりました。環境最先端都市としての福島市になるよう応援します。



近藤智洋さん
環境省
環境計画課長

市長

再生可能エネルギーは、新しい地域づくりでもあります。新たな取り組みには問題も生じることが分かりました。持続的、永続的な活動のため、人材の発掘・育成と、市が(将来的な)方向性を積極的に示す必要があると感じました。全国の素晴らしい事例を参考にしたいと思っています。

太陽光・風力発電

最北端から
最先端へ

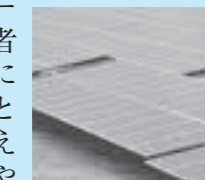
三浦規光さん
稚内新エネルギー
研究会
副会長兼幹事長



稚内市は経済的に落ち込んだ時代がありました。太陽光や風力の再生可能エネルギーの活用で完全復活しました。

太陽光メガソーラーや、厄介者だった風を風車により、しっかりとエネルギーに変えています。実験や研究を重ねました。水素製造にも取り組み、環境最先端のまちづくりを進めています。現在は、市民の消費電力の100%を賄っています。

再生可能エネルギーで元気を取り戻し、電力を賄っている町があることを、福島の皆さんにぜひお伝えしたいと思います。



◆持続可能な
再生可能エネルギーを生み出す◆

先進的な取り組みを紹介

小水力発電

農山村には
十分な資源が
あるはずだ



平野彰秀さん
NPO法人
地域再生機構
副理事長

地域の資源を使うことで、農山村が復権できると考え、岐阜県郡上市で水力発電に取り組みました。辺境から新しい価値が生まれると考えています。私は過疎地で活動しています。福島は被災地ですが、こういう所から新しい価値が生み出されると思います。

日本が次に目指すのは、アジアに範を示せるような持続可能な社会をつくっていくこと。それは福島だからこそできることだと思います。

木質バイオマス発電

林業の再生を
図りたい

笹島 敏さん
(株)グリーン発電
会津
常務取締役



林業が疲弊しています。間伐した資源を放置する実態もありました。この状況を改善し、地域の活力とするために会社をつくりました。

山林の未利用材を安定的に調達し、山からの高品質な資源を活用して発電しています。木質バイオマスにより二酸化炭素の削減になります。派生的効果として、林道の整備や治山治水など持続的再生にも結び付いています。

森林資源を100%活用できれば、地域の雇用、所得の増加につながり好循環が生まれると考えています。

